



廿日市市教委だより

令和2年
7月29日
第4号

～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～



毎日、暑い日が続いています。今年度は夏休みを短縮して授業時数を確保するという
ことで、8月にも授業を行います。児童生徒の体調管理はもちろんのこと、先生方自
身の体調にも十分気を付けて日々の教育活動に当たってください。

今月号は、コロナ禍でもできることを考え、実践している様々な取組を紹介します。
コロナに負けずに、共に頑張っていきましょう！



水分補給

生徒会担当者会 「今、自分にできることを考え、行動する」

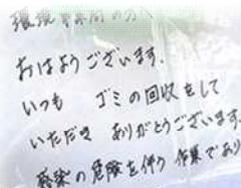
新型コロナウイルスの影響で、様々な行事が延期や中止になる中、生徒会執行
部の生徒の活躍の場の1つである「生徒会サミット」が中止となりました。

このように、学校生活でも思うようにいかないことが多い中、『今、自分にでき
ること』を考え、生徒会活動を推進していくためのきっかけづくりを目的として
生徒会担当者会を開催しました。

協議Ⅰ「今、自分にできることを考え、行動する」では、参加者に生徒になっ
たつもりで、コロナ禍の心温まるエピソードに関する写真を見てもらい、そこか
ら思い浮かぶ言葉を考えました。その後、学校生活に視点を移し、思うようにい
かない中でも、少しずつ進んでいこうとがんばっている姿を1つの映像にまと
め、配信することについて協議しました。



コロナ禍の心温まる話



ゴミ収集者への
感謝の手紙



手づくりマスク
を寄付

協議の末、撮影時期を少し延ばした上で、実施すること
としました。

協議Ⅱ「各中学校生徒会活動の意見交流」では、生徒会
担当者として困っていることや悩み、工夫していることにつ
いて意見交流しました。生徒会の生徒の自己有用感を高め
たいが、このような状況の中では高めにくいというもど
かしさや、できないことが多い中でも、「今できること」
を前向きに考え、形にしようと工夫を凝らしている話等、
生徒のために何とかできないか、創意工夫されていること
に頭が下がる思いでした。

ふるさと学習 「ぼくたちわたしたちに今できること」

令和2年6月26日（金）、佐伯中学校第2学年のふるさと学習が行われま
した。社会福祉協議会佐伯事務所副所長と地域包括支援センターさいきの保健
師を講師として、佐伯地域の現状や新型コロナウイルス感染予防の自粛による
影響、講師の方の仕事について話を聞きました。

新型コロナウイルス感染予防のための自粛により、佐伯中学校の生徒だけでなく地域のお年寄りにも大
きな影響があったことを知りました。

「人とのつながりはとっておきの処方箋」

話を聞いたあと、生徒達は地域のお年寄りの方を元気にするために何ができるか考え、たくさんのアイ
デアを出し合いました。この学習を通して、自分たちのふるさとに愛着と誇りを持ち、地域の一員として
行動できる子ども達に育ててほしいと思います。

- ・メッセージカード
 - ・運動ビデオ
 - ・マスク
 - ・メイキングビデオ
 - ・料理レシピ
 - ・脳トレーニング
- を作ることになりました！



生徒の振り返り

- ・コロナウイルスで自分のことを考えるだけでいっぱいだったけど、今日話を聞いてお年寄りの方が不安を感じていることを知った。
- ・みんなで考えたことをもとに少しでも改善していきたい。
- ・佐伯中の自分たちができることを考え、ふるさと佐伯に貢献していきたい。



コロナ禍でも、私たちはつながれる!

学校は再開したものの、新しい生活様式への対応など、子供も先生も不便や制限を強いられる場面が多々あることと思います。現場の先生からは、このような状況下で子供達のつながりを促すことは難しいとの声もよく聞きます。

新しい生活様式の中でも子供達のつながりを保つにはどうすればよいか、阿品台東小学校の実践が大きなヒントを示してくれました。

阿品台東小学校6年生の学級では、グループごとにコロナ禍においても安全で楽しい遊びができないか話し合いました。あるグループが、「しっぽ取り鬼ごっこ」をベースにして、ソーシャルディスタンスに必要とされる2mのしっぽを着けて行う遊びを考案しました。三密を回避しつ

つながれ! 広がれ! 「宝の山」



つ、長いしっぽを着けて走ることで体力差の影響も少なくなるなど、新たな楽しさが生み出せたようです。完成に至るまでに、道具やルールなどについて試行錯誤を繰り返し、何度も改善や修正を図ったそうです。

6年生が考案した遊びは校長先生より他の学年にも伝えられ、様々な学年でこの遊びを楽しみました。自己有用感を高めるキーワードは、「承認」「貢献」「存在感」です。6年生の子供達は、この取組を経て3つのキーワード全てを実感し、自己有用感を高めたのではないのでしょうか。コロナ禍の状況を悲観することなく、逆転の発想で生活を向上させた阿品台東小の6年生に大きな拍手を送りたいと思います。

特別支援教育の視点に基づいた 学習指導と生徒指導

なぜできないかにこだわる ～多様な子どもに多様な支援～

学校が再開し、重点化した学習を進める今だからこそ、授業が「分からない」「出来ない」、先生の指示が「聞けない」「守れない」ことを子どものせいにするのではなく、特別支援教育の視点に基づいた指導をしていくことが大切です。

○適切にアセスメントする力と対応力の向上

「状態は?」「特性は?」「因果関係は?」
→子どもの困り感の原因に迫る。支援によって子どもの困り感が軽減されたかどうかという視点で寄り添う。

○ユニバーサルデザインの考え方を生かした教育活動

「視覚化」「焦点化」「共有化」
→支援が必要な子どもの立場に立った具体的な支援は、他の子どもにとっての分かりやすさにつながる。

○家庭や関係機関との丁寧な連携

「組織的」「計画的」「解決的」
→「個別の教育支援計画」「指導計画」を確実に作成し、保護者と一緒に、支援内容とその結果を共有する。

ICT 活用への道

今回のテーマは **G Suite for Education** の活用です!

6月、G Suite for Educationのアカウントを先生方と子ども達一人一人に用意し、各校へ送付しました。現在、ログインの練習をさせていただいているところです。G Suiteは、子ども達の「学びを止めない」ための最適なツールです。様々なアプリケーションが使えることは、アカウント配付のときにお伝えしていますが、それらすべてをブラウザ上で利用するクラウドアプリのため、インストールの必要がありません! しかも、ほぼすべてのデータは“自動保存”されるのです!

今後、GoogleClassroomを作成し、そこで、子ども達にリモート授業等で課題を提示したり、子ども達に課題を提出させたりすることができるように進めていきます。



大竹市・廿日市市小学校校長会では、奥教育長がこの機能を使って、校長先生方へ向けて講義演習を行いました。初めて使う機能となると戸惑うことも多々ありましたが、実際に操作してみると、様々な機能があり、幅広い使い方ができることも実感していただくことができました。

★★★GoogleClassroom でできること★★★

《教師》

- * 課題や宿題の投稿
- * 課題や宿題の採点・返却
- * 教材や資料の共有
- * リモート授業の実施

《児童生徒》

- * 課題や宿題の提出
- * 共同編集でのグループワーク
- * 教材や資料の確認
- * リモート授業への参加



市教委も宮島工業高校の先生方にG Suiteについての研修をしていただきました。